

2 奈良市バリアフリー基本構想の概要

奈良市バリアフリー基本構想策定の位置づけ

奈良市バリアフリー基本構想は、高齢者や障がい者（視覚障がい・聴覚障がい・肢体不自由・内部障がいをはじめとする身体障がい者や知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者を含む、全ての障がい者）、妊産婦、子育て世代（子どもも含む）、けが人、外国人などすべての方々に対するバリアフリー上の課題を改善することを目的としています。

この基本構想は、障がい者等当事者参画のもと、奈良市全体のバリアフリー化に対する方向性を示すとともに、駅を中心とした地区や、高齢者・障がい者などが利用する施設が集まった地区を選定し、公共交通機関、建築物、歩行空間等について、重点的かつ一体的なバリアフリー化を推進するものです。

本市の国際文化観光都市としての特性等を十分に踏まえた上で、観光の振興に寄与するという視点も盛り込み、市民とともに実現可能でオリジナリティのあるバリアフリー施策を展開し、継続的かつ発展性のある基本構想として策定しました。

基本理念

基本理念

だれもがいきいき暮らし、気軽に出かけられる古都奈良
～安全・安心で快適な生活と観光の共生を目指して～

取り組み方針

ユニバーサルデザインの考え方に沿ったまちづくり

高齢者や障がい者（身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者・発達障がい者を含む、全ての障がい者）、妊産婦、子育て世代（子どもも含む）、けが人などが、分け隔てなく社会参加を行うことができる環境づくりを目指します。

また、上記の方々に加え、外国人も含めて、国内外のだれもが訪れやすい、訪れたいような、「ユニバーサルデザイン」の考え方に沿った、国際文化観光都市としてふさわしい環境づくりを目指します。

奈良の魅力を高めるバリアフリーの推進

景観や歴史的価値とバリアフリーを両立させ、性別や年齢、障がいの有無、文化の違いなどを超えて、より多くの方が気軽に来訪し、奈良の魅力に触れていただくことができる、古都奈良の魅力をさらに高めるまちづくりを目指します。

みんなで取り組むバリアフリー社会の実現

障がいがあるの方々をはじめ、だれもが社会に参加できる環境を実現するため、個人も事業者も当事者も、みんなで出来ることから取り組むことで、まち全体でバリアフリー化を図ります。

街なかの道路や店先の段差などのハードの改良だけでなく、おもてなし・接遇・人による介助といったソフトの対応も含めて、1つずつできることから改良し、だれをも迎え入れ、見守ることができるバリアフリー社会の実現を目指します。

思いやりの精神をはぐくむこころのバリアフリーの推進

ひとりひとりが高齢者や障がい者等への理解を深め、困ったときには自然に助け合える“こころのバリアフリー”を推進し、お互いに支え合い、だれもが同様に尊重しあう、思いやりの精神をはぐくんでいきます。

実施すべき特定事業計画の整備方針

公共交通特定事業等

鉄道駅（JR奈良駅、近鉄奈良駅）やその周辺は、高齢者・障がい者などの方々を含む多くの市民が日常的に利用することはもちろん、多くの観光客が利用するため、様々な利用者を想定し、誰もがわかりやすく、安全で円滑に目的地に移動できるよう、経路の確保・案内・休憩施設の充実を図ります。当事者に対する案内・情報発信については、点字による案内を充実するとともに、音声・電光掲示など緊急時にも柔軟に対応できるよう複合的に整備します。すでにバリアフリー化されている施設・設備・サービスに関して、当事者だけでなく全ての利用者に広く周知することで、当事者が適切に利用できる環境を整え、総合的なバリアフリー化を図ります。現在運行しているノンステップバスの利用者への周知など、バリアフリー対応車両の周知と利用促進を図ります。様々な利用者が安全で快適に使えるようにバス停の改良を進めます。福祉タクシーや福祉有償運送の導入・普及を進めます。

道路特定事業等

歩道の有効幅員、段差、視覚障害者誘導用ブロックなど、移動等円滑化規準に満たない主要な経路（生活関連経路）については、安全で快適に移動できるよう、基準に沿ったバリアフリー整備を実施します。なお、規準への早期対応が困難であり、安全面から緊急性等を考慮する場合は経過措置・代替案の検討・採用を行います。JR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良公園へのルート上など、多くの観光客が通行する経路を中心に整備し、快適にまちなかを周遊できるよう休憩できる場所の充実を図ります。“ならまち”など道路が狭く歴史的まちなみを有する区間では、交通規制や地域によるサポートなどソフト対策を含めた総合的なバリアフリー化を行います。通行に支障となる看板や自転車など障害物の除去・指導を行います。

路外駐車場特定事業等

障害者用駐車施設を適切に確保します。駐車場と前面道路との連続性を確保するとともに、ベビーカーや高齢者も安心して使用出来るよう、駐車場の余裕を持った空間の確保、歩行者の安全な通行空間の確保につとめます。障害者用駐車施設の適切な利用ができるよう、一般利用者への理解促進等の対策をすすめます。聴覚障がい者でも安心して利用できるよう、出口精算機にわかりやすい文字案内の設置等の対策をすすめます。

都市公園特定事業等

利用者の視点に立ち、誰もが移動しやすい園路の整備および各施設（トイレ等）のバリアフリー化を図ります。観光客も気軽に利用し、くつろぐことができるようベンチなど休憩スペースの充実を図ります。遠くからでも公園の存在がわかるように接道部の改良やサインを工夫します。おむつ交換台、授乳室等子育てに関連する設備の有無に関する案内など、子育て世代も安心して観光できる環境の整備・情報の発信を行います。

建築物特定事業等

【施設全般】

高齢者や障がい者をはじめとした多くの人の利用が見込まれる建築物については、奈良県住みよき福祉のまちづくり条例に基づいた施設（通路やスロープ、エレベーター、トイレ、駐車場等）のバリアフリー化を推進します。

多くの人の利用が見込まれる建築物について、周辺道路からの視覚障害者誘導用ブロックの接続等、外部との連続性に配慮したバリアフリー化整備を推進するとともに、受付案内、トイレ、エレベーターなどの各施設へ、誰もがわかりやすく到達できるよう案内誘導を図ります。

【医療施設】

奈良市内の他の病院や診療所の模範となるバリアフリー化を目指します。

交通安全施設特定事業等

主要交差点には信号機（音響信号、延長ボタン等）を設置するとともに、横断歩道ラインの明確化、エスコートゾーンの設置など、安全に横断歩道を渡れるよう施設の改良を図ります。

移動の障害となる歩道上などにおける違法駐車取締り、放置駐輪の指導等を推進します。

ならまち等狭隘な道路空間については、歴史性や景観に配慮しつつ、交通規制等を検討することで歩行者の安全性向上を図ります。

観光バリアフリー

奈良市内の寺院・神社やならまちなど歴史的景観や文化財を保護するための規制やルールを遵守しながらも、各事業者（施設管理者）がバリアフリー化を工夫されてきた経緯を大切に、今後も、誰もが奈良の観光を楽しめるよう、ハード・ソフト対策の両面からバリアフリー環境づくりを進めていきます。また、2020年の東京オリンピック開催に伴い、主に国外からの来訪者の増加が予想されることから、外国人を含む来訪者に奈良市で楽しんでいただけるよう観光バリアフリーの充実を図ります。

寺院・神社におけるバリアフリー

歴史的建築物など、抜本的な改築が困難な建築物については、各寺院・神社が検討中、または策定済みの境内の整備計画等との整合を図りながら、バリアフリー課題への対応を検討します。

歴史・文化・景観の側面からバリアフリー化が困難な場合において、他の好事例や当事者との意見交換を参考とした、情報発信などによる工夫や人による介助・支援の充実などによりバリアフリー化を図り、だれもが来訪しやすい古都奈良として魅力を高めます。

こころのバリアフリー等

バリアフリー化の重要性や高齢者・障がい者等に対する理解を深め、行動につなげるため、事業者・市民・当事者がそれぞれの責任と協力のもと「こころのバリアフリー施策」を検討、実施していきます。